

第2回国際データガバナンス検討会の振り返り

議論の ポイント

- 本検討会では、データの越境移転に関する**国内のステークホルダーのニーズを収集**し、OECDの下に設置される Institutional Arrangement for Partnership (IAP) への具体的な提案内容を議論する。
- 国際データガバナンスを推進する上では、データ戦略に基づいて、**国内で個人・非個人データを含めた国際データガバナンス推進に向けた国内メカニズム・エコシステム**を形成することが重要である。本検討会においては、そうした**メカニズムの戦略的な構築に向けた提言**を、取りまとめたい。
- 国際データガバナンス推進に向けた国内メカニズム・エコシステムの実現や今後の議論に向けて、以下の点が課題として挙げられる。

<国際データガバナンス推進に向けた国内メカニズム・エコシステムの実現に関する課題>

- データの越境移転に関する**国内のステークホルダーのニーズの収集**は重要な課題であるが、ニーズを拾い上げるだけでは、国際的な議論と国内の議論が噛み合わなくなってしまう恐れがある。市場がガラパゴス化しやすい日本においては特に、**グローバルなアジェンダを国内の主体に意識的に共有していくことも必要**。
- 国際データガバナンス推進に向けた国内メカニズム・エコシステムの継続的な運営にあたっては、長期的な投資が求められるため、**公的資金以外の資金調達やマネタイズの方法についても検討が必要**。また、資金獲得に向けては、**メカニズムの実現によるメリットやストーリー**を伝えることがポイントとなる。

<国際的にさらに議論すべき課題>

- 「**個人と非個人**」と「**官と民**」の2つの軸でデータを捉え、データの越境流通を整理することが重要。
- **非個人データの越境流通**について、さらなる議論が必要。
- データの越境移転に関する**各国規制の透明性**を高めることが重要。またその際、**規制の趣旨や目的**を明らかにするよう求め、規制の調和を図ることが必要。
- 国内のデータスペースと**国外のデータスペースとの連携**の実現に向けて、データ越境が行われるパターンの整理や、各パターンにおける対策の検討が必要。
- **規制のサンドボックス間の国際連携**も重要。